

海外派遣終了報告書

所属：総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻 D2

氏名：岩田 高志

海外派遣先国名：アイスランド

海外派遣先大学名：Southern Denmark 大学

海外派遣期間：7月2日～7月29日

海外派遣先大学について

Southern Denmark 大学は、1998年に Odense 大学、Southern Denmark 商工学校、South Jutland 大学センターが合併してできた大学である。受け入れ教員の Lee 教授の研究室は、虫やコウモリ、鯨類の聴覚や音響コミュニケーション、生物ソナーの研究を行っている。

海外派遣前の準備

私は現在、動物装着型小型記録計（マイクロデータロガー）を使用した海洋生態系の高次捕食者の行動の研究を行っている。私の博士課程の研究テーマは、彼らの潜水行動を調査し、採餌戦略が海洋環境の変化にどのように適応しているのかを明らかにすることである。今回私は、受け入れ先大学である Southern Denmark 大学の Lee 教授と一緒にアイスランド、Gardur 湾沖に生息するミンククジラの生態調査を目的とする国際プロジェクトに参加した。

Lee 教授は、動物音響学の専門家であり、私は、日本の動物音響学の専門家の方に Lee 教授を紹介していただいた。Lee 教授とは事前に調査の準備や機材の手配状況等を e-mail で何度も連絡を取り合った。

航空券に関しては、出発 3 週間前に手配を行い、日本（成田）からデンマーク（コペンハーゲン）までをスカンジナビア航空、デンマーク（コペンハーゲン）からアイスランド（レイキャビク）までをアイスランド航空で購入した。ビザは、滞在期間が 90 日を超えると必要になるが、今回は約 1 ヶ月の滞在のため、必要では無かった。

また、派遣先で使用する言語は英語であることは事前にわかっていたので、NHK のラジオ英会話やリスニング力を鍛えるような参考書を使用し、英会話対策を行った。

調査について

目的

本プロジェクトは、ミンククジラの可聴域を調査し、さらにクジラが採餌の際にどのような行動をとるのかといった生態調査を目的とした。調査はデンマーク、アメリカ、日本、アイスランド、ロシアの計 5 カ国、科学者、船員合わせて 20 名前後で行った。

方法

調査方法は、まず旋網によりクジラを捕獲し、捕獲したクジラに脳波を取りながら様々な波長の音を聞かせの脳波に表れる反応を見ることによりクジラの可聴域を調査し、クジラを放流する前に動物装着型小型記録計をクジラに取り付ける。記録計は二つ使用し、一つは、深度、温度、速度、3 軸の加速度、3 軸の地磁気を計測する行動記録計で、もう一つはクジラの発した音を記録する音響記録計である。このうちの行動記録計は私が用意したものである。記録計は 3 日後にタイマーにより切り離される仕組みになっており、切り離された後に記録計と供に取り付けた VHF 発信機の電波を頼りに回収するというものである。

結果

調査日数は 10 日間（毎日日帰り）、内 2 日は海況が悪かったため中断、旋網回数は 4 回、クジラを捕獲した回数 0 回だった。クジラは多く見られたものの、波やうねりがあったり、風が強かったり、また、水深が旋網の高さよりも浅かったりした場合、旋網を行うことが出来なかった。他にも、クジラが採餌に専念している際に捕獲する予定だったが、今年はクジラの餌である魚が異常に少なかったため、採餌に専念しているクジラがいなかったことが捕獲を困難にした原因だと考えられる。また、調査中にミンククジラ以外にも、ザトウクジラ、ハナジロカマイルカ、ネズミイルカ、シャチといった、多くの鯨類を観察することができ、鯨類の調査フィールドとしてとても恵まれた環境であった。



本調査の対象種であるミンククジラ



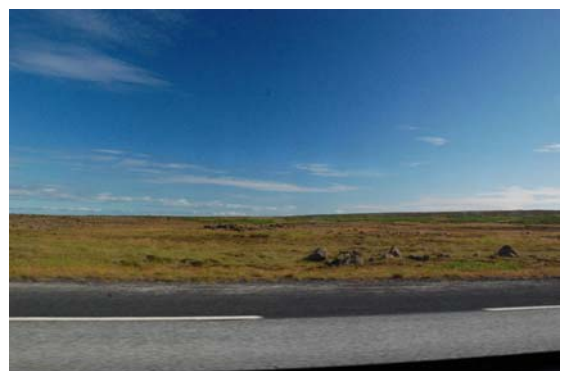
調査中に見られたシャチの親子

その他の活動

アイスランドは地熱発電が有名な国で、調査が休みの日に地熱発電所の近くの湖の見学に行った。その湖の水は青い色をし、ブルーラグーンと呼ばれている。また、首都のレイキャビクにある大聖堂の見学もした。特に何かあるわけでも無いのだが、その聖堂の中はまるで童話の世界にいたようだった。調査日程が過密でありほとんど休みの日が無かったため観光らしい観光はそれほど出来なかったが、アイスランドは自然が豊富なため、特に観光に行かなくても移動の間に見られる景色すべてに新鮮さと自然の雄大さを感じることができた。



地熱発電所側の湖



移動中の車からの風景

費用について

費用は往復の航空券が 27 万円、約一ヶ月の宿代が 10 万円、食費が 15 万円だった。アイスランドは物価が日本の二倍以上あり、何を買うにしても非常にお金がかかった。宿代は大学の施設に素泊まりだったため、比較的安く済んだが、朝晩のご飯はレストランだったので結構高くなった。滞在中の移動費などは全

て車で移動だったため、私個人の出費にはならず特に不便はなかった。

語学状況

会話は誰と話す場合も全て英語で行った。アイスランド人もほぼ英語が話せるので英語が話せれば特に問題はない。しかし、私自身の英語力が低かったため、会話に慣れるまで大変で、会話中に辞書を使用することもよくあった。自分から話すように心がけていくうちに、少しずつ会話ができるようになり、なんとかなると分かってから気楽に話せるようになって辞書も使用することはほとんどなくなった。

困ったこと

私が困ったことは、物価が高いため生活に非常にお金がかかるといったことであった。そのため、現地で物を調達しようと考えるとお金があつという間になくなってしまふので、お金の計画はもっと余裕を持って考えるべきであったと思う。また、クレジットカードを二枚持っていったのだが両方とも上限が10万円だったため、約10万円の宿代を払うのに苦労した。

海外派遣を希望する後輩へアドバイス

私は外国へ行くこと自体が初めてだったので、日本語が通じない世界、文化が異なる世界、全てが新鮮で、全てが良い経験となった。特に英語でしか過ごさない日々は、英語力を成長させてくれる最高の機会だと思う。海外の研究者と触れ合う機会は少ないと思うが、もし機会さえあれば絶対に行ってほしいと思う。